



遊びを通じて防災を学ぶ 「あそぼうさい まなぼうさい」



新潟県燕市こども未来課
(児童研修館「こどもの森」前館長) 神保 一江

1 取り組みのきっかけ

防災の取り組みを本格的に始めたきっかけは食物アレルギーのお子さんを持つ母からの相談でした。「避難所での食事が心配だ。誰もが安心して食べることのできる炊き出し訓練をしたい。地域の人々に食物アレルギーについて知ってもらいたい。」というものでした。「うん、やろう!」と即答したことを覚えています。防災について全くの素人がなぜ自信満々にやってみようと思ったのか、それは、地域に力になってくれるであろう人たちがきつというという考えがあったからです。そこから、地域に足を運び協力を依頼するという形でこどもの森の防災の取り組みが始まりました。

2 児童館という特性を活かして

児童研修館「こどもの森」は児童館と子育て支援センターの機能を持つ施設です。0歳から18歳までの子どもたちが自由に遊びに来ることができます。隣には大きな公園があり、燕市内だけでなく市外、県外からもたくさんの利用者が遊びに来てくれます。防災の取り組みを始めた当初、参加者がとても少なく、どうしたらよいのかと頭を悩ませました。そこで、考えたのが、遊びながら自然と防災について学ぶことができる取り組みでした。遊びに来た人に、何か楽しそうなことをやっているみたいと思

わせる仕掛けを作り、皆を巻き込んで防災講座を実施するというものです。「防災ごっこ」「もぐもぐBOUSAIファンタジー」「コドモリーからの挑戦状」など、ネーミングも工夫し、スタンプラリーやカード集め、謎解きなどをしながら防災について学ぶ講座を企画しました。

3 防災×遊び

2018(平成30年)10月21日、「防災」「食」「遊び」をキーワードにスタンプラリーで回る「防災ごっこ」を実施しました。市の防災課、社会福祉協議会、地域のNPOや企業など多くの団体の協力により、『いざ!という時のトイレ体験』『お役立ち保存食紹介』『うたっておどって防災体操』など18もの体験ブースを設けることができ、参加者450名という大変大きな企画となりました。そしてこの時、食物アレルギーに配慮した炊き出し訓練も行うことができました。快晴の日以外で食物アレルギーを持つ子どもたちが皆と一緒に米粉のすいとんを食べている姿、忘れることのできない一日となりました。

この年以降、同様のイベントを改善を重ねて実施しています。食体験では衛生面の配慮を強化し、体験ブースも回を重ねるごとにブラッシュアップしていきました。食べ物や水の備えだけでなく子どもたちの心のために「遊びの備え」を考えるブースを設置したことはこどもの森らしい取り組み



食物アレルギーに配慮した炊き出し訓練



スタンプラリーでさまざまなブースを回ります



水のいったポリタンク運べるかな？



外国人の皆さんと交流会で避難所のお遊びを考える

ではないでしょうか。

また、食物アレルギーだけでなく、災害時の要配慮者といわれる外国人や障がい者、乳幼児、妊産婦など、誰ひとり取り残さないという視点での取り組みも行いました。これも単に知識を押し付けるのではなく、日本語が分からない人、耳の聞こえない人、けがをした人などを手助けするミッションや大声で助けを求める大声コンテストなど楽しみながら学ぶ仕掛けを作りました。

遊びのプロとして、子どもたちに防災をどう伝えていくか、今後も考え続けていきたいと思っています。

4 地域の中の児童館として

近郊では中越地震や新潟・福島水害（7.13水害）で甚大な被害があり、また古くは

信濃川洪水により幾多の水害が発生し、大河津分水が作られたという背景を持つこの地域で、子どもたちの防災力を高めるための取り組みを実施し続けています。この場所には子どもがいるということを地域の方に知ってもらい、子育て中の方には、ここは子どもが安心して過ごせる場所だということを伝えることができました。このつながりは、いざという時に子どもたちを助ける大きな力となると信じています。

今後は「出張児童館」という形で地域に出かけ、子どもたちと地域をつなぐ活動を続けていきたいと考えています。子どもたちが遊びを通じて防災について学び、考え、地域の大人たちがそれを支える力となるような場を提供できるよう励んでいきたいと思っています。